

WORLD ROWING U23 CHAMPIONSHIPS

2014 REPORT 9 (7/25)

大会3日目はアルプスの山々もうっすら見える良い天気の中はじまった。大会運営はようやく落ち着きを見せはじめた。

9:58 BLM1xクォーターファイナル

3位以内に入れば準決勝A/Bが決まる戦いは定刻通りにスタートした。スタートからレースの流れに乗るものの500mの通過はトップアメリカと2.84秒差、準決勝A/B通過ラインの3位イタリアとほぼ並ぶようにして1.36秒差の5位で通過。会場のアナウンスでも「FURUMAI」の名が度々叫ばれている。レースの主役の一人になっている証拠だ。第2クォーターに入っても各クルー勢いが全く落ちない。日本も負けじとついて行くがトップアメリカが頭一つ抜け出しイタリア、ドイツ、日本、デンマークが追いかける展開になった。1000mでは通過ラインの3位ドイツと3.1秒差の4位。積極的に仕掛けるも第3クォーターではペースの落ちないドイツに徐々に離されはじめ1500mでは5.8秒差と苦しい展開に。第4クォーターに入り5位デンマークと激しく競り合いながら3位ドイツを追撃するも、5.77秒差で逃げ切られ準決勝C/Dにまわることになった。



森山サポートコーチとミーティングをする
BLM1x古米選手(日本大)



力漕するBLM1x古米選手(日本大)

10:47 BLW2x敗者復活

スタートからチェコが飛ばしドイツ、イラン、日本、オーストリア、イタリアが追いかける展開に。500mの通過はトップのチェコと4.68秒差の4位で通過。しかし準決勝A/B通過ラインである3位イランとはほぼ並んでいる。第2クォーターに入るとアジアカップ I チャンピオンの意地を見せ3位イランを僅かに逆転。息詰まるレース展開を繰り広げる。第3クォーターに入りさらに勢いを増す日本は4位イランとの差を広げはじめ、さらに2位ドイツとの差も縮めはじめる。1500mの通過は4位イランとの差を2.36秒差に広げ突き放す。このまま3位をキープし準決勝A/B進出かと思われた第4クォーターで誰もが予想したレース展開を良い意味でぶち壊すかのような切れ味鋭いラストスパートをさく裂させ、追いすがるイランをさらに突き放し、必死に逃げるドイツをゴール手前で逆転し2位でゴール。見事明日の準決勝A/B行きのチケットをもぎ取ることに成功した。



出艇直後のBLW2xクルー。緊張感と静かな闘志がみなぎっている。

写真手前より、S富田選手（明治大）、奥がB川本選手（日本体育大）



1900m地点で必死に逃げるドイツをとらえる日本のBLM2xクルー（手前）。

写真左よりB川本選手（日本体育大学）、S富田選手（明治大学）

11:01 BLM2x敗者復活

厳しい戦いが予想されたが、水上に出ていくBLM2xクルーからは覚悟が感じられた。その雰囲気どおりスタートから積極的に攻め500mの通過は5位で通過ながらもトップと1.97秒差でほぼ横一線。素晴らしいスピードを表現できている。第2クォーターも攻め続けるが徐々に離され準決勝A/B通過ラインの2位ウクライナとは4.6秒差の5位。第3クォーターも必死に粘るものの離され2位とは7.58秒差に差を広げられる。前半から攻めたダメージが後半に出る形になってしまったが、第4クォーターも最後まで力を振り絞りゴール。クルーとしての準決勝A/Bへの夢は断たれてしまったが、この二人の頑張りが日本チームに良い流れをつくることとなった。



スタートに向かう準備をするBLM2xクルーをバレーゼ湖の白鳥が出迎える。

写真左よりB濱上選手（関西電力美浜）、S山口選手（日本大）



ゴール前、必死のラストスパートを入れるBLM2xクルー。

写真左よりB濱上選手（関西電力美浜）、S山口選手（日本大）

11:22 BLM4-敗者復活

2位までが決勝進出がかかった後がない大一番。スタートから激しい戦いが繰り広げられた。横一線ながら僅かに飛び出したのはフランス、続いてスイス、日本、ドイツ、ハンガリーと続く。第2クォーターでも1位フランスから4位日本までが0.94秒差に入る大接戦。場内アナウンスも興奮した様子で実況を続ける。第3クォーターに入るとドイツが頭一つ抜け出し始める。続いてスイス、フランス、日本が1秒差程度の中にひしめきながら1500mを通過。ラストクォーター、生き残りをかけたスパート合戦の中、猛然とフランス、スイスをかわし2位に浮上したのは何と日本だった。会場の声援を一身に浴びながら1位ドイツと共に念願の決勝進出を果たした。



1700m付近でスパートに入るBLM4-
左より 平木選手(一橋大)、中村選手(一橋



レース後栈橋に帰艇するBLM4-
手前より 平木選手(一橋大)、中村選手(一橋大)、佐藤選手(日本大)、奈良選手(日本大)

12:32 BW1x敗者復活

スタートからスピードに乗り500mの通過はトップデンマークに続いて、準決勝A/B進出ラインの2位で通過。十分に可能性のあるレースを展開する。第2クォーターに入るとラトビアの選手がグイグイと艇速を伸ばし2位に浮上する。日本は3位に後退するも1000mは2位ラトビアとほぼ並んで通過。第3クォーターに入るとラトビアがトップデンマークを追い立て2クルーが抜け出す形に。日本も必死に追うが徐々に差が付き3位で1500mを通過。第4クォーターも必死にスパートをするが及ばず準決勝C/Dにまわることになった。



諦めずラストスパートに入る
BW1x 榊原選手(早稲田大)

15:00 BLM2-準決勝A/B

世界の決勝進出をかけた最初の戦いに、初日見事に日本チームの良い流れを作ったBLM2-クルーが登場した。スタートから各クルー主導権を握る戦いが繰り広げられ日本もその流れの中でしっかり存在感を示していた。500mは4位ながらも3位カナダとは僅かに0.22秒差で通過。決勝進出の可能性は十分にある好位置につけた。第2クォーターも各クルーハイペースで突き進んでいく。日本もついて行くが4位のポジションは変わらない。第3クォーターで僅かにスピードが鈍ったところで5位につけていたオーストラリアにかわされ5位に後退。第4クォーター、持てる力を振り絞り漕ぎ切るが5位のままゴール。前半からガッツ溢れるレース展開を見せてくれたが惜しくも決勝進出は逃すことになった。



出艇前に監視を受けるBLM2-
右より 藤田選手(一橋大)、林選手(中央大)



ラストスパートにはいるBLM2-
左より 林選手(中央大)、藤田選手(一橋大)

15:49 BLM1x準決勝C/D

この日2本目のレースではあったが、スタートから積極的に攻め続け500mをトップで通過。2位ロシアに2.48秒差をつけ頭一つ抜け出した。第2クォーターに入るとノルウェーとスロバキアが艇速を伸ばし徐々に差を詰めてくる。1000m、1500mとトップを保ち続けるも第4クォーターでノルウェーに僅か0.32秒差でかわされ2位で決勝Cに進むことになった。一戦一戦内容の濃い戦いを繰り広げる古米選手、明日の決勝Cでのレースも非常に楽しみである。



熾烈なトップ争いを繰り広げるBLM1X
古米選手(日本大)

16:38 BW1x準決勝C/D

予選、敗者復活と準決勝A/B進出は逃したものの手ごたえを感じながらのスタートになった。スタートからグイグイ艇速を伸ばしトップで500mを通過。その後一度もトップを譲ることなく2位チュニジアに1000mで4.41秒差。1500mで5.74秒差と付きはなし、つけ入るすきを与えない。そのまま危なげなくゴールまで突き進み準決勝Cに進むことになった。日本のオープンウェイトの夢を乗せて明日最後レースとなる決勝Cに挑む。



2位以下を大きく引き離しゴールへ
突き進むBW1x 榊原選手(早稲田大・
写真左)

残り2日、選手・スタッフ一丸となって戦って行きますので応援よろしくお願い致します。